

(様式1)

令和8年5月11日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立志貴野高等学校
校長 北村 宜也

令和8年度学校経営計画を別紙(様式2・3)とともに提出します。

令和8年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- 人間尊重の精神に基づき、校訓「研学・実践・誠実」の下、真理を追究し、社会の変化に主体的に対応できる生きる力と自己教育力を培う。
- 創造力と実践力に富み、誠実で豊かな心を持って、たくましく生きる人間の育成を目指す。

2 学校の特徴

本校は、高岡駅前の「ウイング・ウイング高岡」内に位置する、定時制・単位制の高等学校である。富山県民生涯学習カレッジ高岡地区センターを併設し、生涯学習の拠点としての機能を併せ持っているのが大きな特徴である。設置学科は、普通科、総合ビジネス科(商業科)、生活文化科(家庭科)、国際教養科(国際科)である。普通科には昼間制Ⅰ部、夜間制、総合ビジネス科には昼間制Ⅰ部、Ⅱ部、生活文化科には昼間制Ⅱ部、国際教養科には夜間制がある。単位認定は、前期、後期の2期に分けて実施し、「自ら計画したペースで学ぶ」「多様な進路希望」等、個々のライフスタイルやニーズに柔軟に対応できるようカリキュラムを編成している。また、通信科目やボランティア活動、技能審査の成果なども単位として認定するなど、多岐にわたるニーズに応じ多様な学びを尊重している。少人数制によるきめ細かな支援に加え、社会人と共に学ぶ「共学講座」では、世代を超えた交流を通じて豊かな視点を養うことができる。

3 学校の現状と課題

本校には、不登校経験や障害、外国籍など、多様な背景を持つ生徒が集い、それぞれの経験や価値観、学習意欲も多岐にわたる。生徒一人一人の夢を実現する学びの場として、授業改善をはじめとし、生徒が自分で考え、自ら行動するようすべての教育活動において「生徒が主語」である活動を実践する。

就職だけでなく、大学進学を目指す生徒への対応等、個に応じたキャリア教育を実践することが必要であり、学校組織の活性化、外部機関との連携等を一層推進する必要がある。

- (1) 一人一人の習熟度や興味に合わせた学習環境を整え、基礎的な学力と自ら学ぼうとする意欲を育てる。教員は学内外での研鑽を通じて指導技術を磨き、生徒が自ら考え、周囲と協力しながら深く理解を深める授業を実践する。あわせて、デジタル端末を活用した効果的な教育活動を推進する。
- (2) 生徒の抱える困難を早期に察知し、伴走型の支援を行うため、専門スタッフ(SC・SSW等)や外部機関(児相・警察等)と連携した強固な支援体制を構築する。個別計画を単なる事務手続きに留めず、生徒の特性を多角的に捉えるとともに、全教職員が情報を共有し、一人一人の可能性を最大限に引き出す教育環境を組織として保障する。
- (3) 卒業後を見据えて、組織的なガイダンスと個別指導を徹底し、確かな職業観を確立する。また、ポートフォリオを通じた振り返りを深めることで、進路実現に向けた高い志と意欲を醸成する。

(様式2)

4 学校教育計画

項目	目標・方針及び計画	
学習指導 重点1 (教務部)	目標	<ul style="list-style-type: none">・<u>単位修得率の向上(学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る)</u>・<u>生徒の学習実態の把握</u>
	計画	<ul style="list-style-type: none">・『学習・生活の手引き』の「授業の記録」の活用を図り、授業に参加することの意義を認識させる。・面接週間の充実を通して、生徒一人一人の学習歴、学力、興味・関心などを把握し、学習指導を推進する。また、履修指導を通して、生徒の授業に対する意欲を引き出し、主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。・生徒に意欲を持たせる授業が展開できるよう、生徒の実態をより正確に把握するとともに、互見授業を通して授業改善に取り組む。・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を実施し、結果をフィードバックする。(実技教科についての練習時間等を含む)
学校生活 重点2 (生徒指導部)	目標	<ul style="list-style-type: none">・健康で安全な生活を送るため、<u>基本的な生活習慣の確立</u>と心身の調和的発達を図る。・社会的責任や役割を自覚して行動ができるよう、<u>自己指導能力の育成を図る。</u>
	計画	<ul style="list-style-type: none">・行動・身だしなみチェックを実施し、生徒自身に基本的な生活習慣について考えさせる。・挨拶の励行と自らの行動や態度に責任を持たせる指導に取り組み、家庭や地域との連携を密にしながら基本的な生活習慣の定着を目指す。
学校生活 重点2 (保健・教育相談部)	目標	<ul style="list-style-type: none">・生徒が心身共に健康な学校生活を送ることができるよう、自分の健康について主体的に考え、改善しようとする意欲と態度を育てる。・生徒の衛生意識や美化意識を高めることで、自ら環境美化に努める態度を育てる。・<u>生徒の社会的な自立と自己実現を目指し、教育相談体制の充実を図る。</u>配慮を要する生徒について、教員間で共通理解を図るとともに、支援体制を整え、適切な支援を行う。
	計画	<ul style="list-style-type: none">・保健行事や健康教育、生徒保健委員会の活動等を通して、心身の健康について理解と関心を高める。・「美化の日」や特別清掃を設定し、重点項目を定めて一斉清掃を実施する。・さまざまな困難を抱える生徒への適切な支援を行うために、教員同士の情報共有を効果的に行い、必要に応じて専門スタッフ(SCやSSW等)を交えての検討会を実施する。また、教育相談や特別支援教育への理解を深めるために、教職員を対象とした研修会を実施する。・「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の活用を推進し、生徒の個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実を図る。
進路支援 重点3 (進路指導部)	目標	<ul style="list-style-type: none">・生徒が社会的に自立することができるように、学校全体でキャリア教育の充実に取り組む。・「自己の在り方、生き方や働き方」を考えさせて、<u>自己実現の達成に向けて主体的に進路選択ができるように指導する。</u>
	計画	<ul style="list-style-type: none">・進路ガイダンスや進路講話、先輩(卒業生)と語る会を実施して、進路意識の高揚を図る。・インターンシップや学校説明会への参加を促し、進路研究を進めるとともに、自己理解を深める機会とする。・1年次より目標を設定させ、生徒のキャリア発達に合わせた学習に取り組ませるように指導する。とくにキャリアパスポートにポートフォリオを積み重ねることで振り返りができるようにする。・ハローワークやJSTと連携し、円滑な就労支援を行う。・学力向上のための特別補習を効果的に実施する。
特別活動 重点4 (特活部)	目標	<ul style="list-style-type: none">・学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動、部活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、よりよい社会を築こうとする自主的、自立的な態度を育て、明るく健全な学校づくりを目指す。・ボランティア活動を通して地域社会との連携を深め、社会参加・社会貢献への意欲と関心を高める。
	計画	<ul style="list-style-type: none">・学校行事、ホームルーム活動の活性化を図り、<u>生徒が主体的・意欲的に参加できるように工夫する。</u>・自主的に活動する能力、態度の育成を図るため、行事の運営を工夫し、<u>生徒の積極的な行事への参加を促す。</u>・部活動を通して、充実感・達成感を体験させるとともに、年次の枠を超えた良好な人間関係の育成を目指す。・清掃活動や障害者施設への訪問、高岡なべ祭りなど地域行事のボランティア活動を通して、自己肯定感の獲得と社会参画意識の向上に努める。

特別活動 重点4 (図書部)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生徒図書委員を育成し、生徒の自主的な委員会活動を推進する。</u> ・学科、教科との連携、学習や研修に役立つ資料の充実を図る。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>図書館講座等の企画・運営を通して、</u>生徒の自主的で活気ある委員会活動を推進する。 ・推薦図書の開示など図書委員会による広報活動を活発化する。 ・生徒の自主的学習や教職員の研修のための図書館資料の整備と充実を図る。
検定取得 (総合ビジネス科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得して、その意義や役割についての理解を深め、ビジネス社会の発展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を育てる。 ・体験的な学習を通して、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力と望ましい職業観・倫理観を養い、人間性豊かで社会の変化に適応できる人材を育成する。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やビジネスに関する科目の基礎的・基本的な知識と技術の徹底を図る。そのために生徒の実態に応じた授業内容の創意工夫を図り、生徒の教科に対する興味・関心と学習能力を高める。 ・自主的、自発的な学習態度の育成に努め、各種検定試験に積極的に取り組み、合格を目指す。 ・体験的な学習の機会を多く提供し、ビジネスの場面での実践的な対応力と多様なビジネス社会への適応力を育てる。 ・授業で学んだビジネスの知識や技術や現実の社会や環境の変化に対応できる能力を育成し、各自の進路選択やキャリアアップに活かせるようキャリア教育の充実を図る。
検定取得 (生活文化科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活産業における将来のスペシャリストとして必要な知識と技術を身に付けさせる。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の各科目において、体験的・実践的学習を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 ・生徒の実態に即した授業内容により、学習意欲を高め、自発的・創造的に学習する態度を育てるとともに課題解決能力や社会への適応力を身に付けさせる。 ・各種検定試験やコンテストへの挑戦を目指し、意欲的に取り組ませる。 ・家庭クラブ活動等も含めて地域社会との連携を目指し、積極的な参加を促す。
ICTの活用 重点5 (情報管理部)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ICT機器を活用するための知識と技術を習得し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる基本的な能力と態度を育てる。</u> ・ネットワークを利用して、学校の情報を積極的に発信する。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ICT機器の整備と更新を通じて充実と活用を図る。</u> ・情報モラルの意識を高め、情報セキュリティの理解に役立つ研修等を企画し、情報スキルの向上を図る。 ・情報設備や機器の適切な保守管理を行い、ネットワークの定期的な点検を実施して障害を防止し、安全なシステム運用を行う。 ・システムやネットワークの障害発生時に迅速に対処して、トラブルを防止する。 ・ホームページ等を活用し、学校の活動を外部に紹介する。
PTA (総務部)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動に対する保護者の関心を喚起し、保護者の参加を促す。 ・同窓会の活性化を図る。 ・生涯学習機関との連携を図る。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の関心に合わせた活動内容を設定し、総会やPTA活動への参加意欲を高める。 ・保護者と学校の情報共有の場としてPTA通信「志高だより」を活用する。 ・同窓会の役員改選と今後の方向性を協議する。 ・共学講座のスムーズな運営にあたる。
進路支援 (普通科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るとともに、主体的・対話的な態度を育成する。 ・各年次や進路指導部と連携し、卒業までを見通した進路指導を行い、進路希望を実現させる。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けられるよう学校生活を指導する。 ・ボランティアや検定等などの諸活動に意欲的に挑戦させる。 ・生徒の実態に即した教材や補習指導を通して、進路実現に必要な力を養う。 ・生徒の進路希望を実現するため、各年次や進路指導部と連携し、各年次に即した進路ガイダンスを行う。

学習活動 (国際教養科)	目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国々の伝統や習慣を理解し、尊重する態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を高め、グローバル社会に必要な基礎的素養を培う。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 国際化にふさわしい知識や教養を習得させるために、学校設定教科「国際」の授業内容や「国際教養講座」等の行事の充実を図る。 環日本海諸国の言語を第二外国語と位置づけ、その学習を通して各国の文化に対する理解を深めさせるとともに、日本社会について考える態度を育成する。 国際社会で活躍できるマナー・表現力・コミュニケーション能力の伸長を図る。 資格取得等に意欲的にチャレンジさせる。
学校生活 (1年次)	目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の個性や適性を見出すとともに、自律・自立的な態度を育成する。 自己理解を深め、進路意識を育みながら学力の向上を図る。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 面接や個別指導を通して生徒理解を深める。 身だしなみに気をつけ、高校生らしい品位の確立を図る。 基本的な生活習慣確立のため、生徒の出欠状況を逐次把握することで欠課や遅刻等の防止を図る。 基礎学力を身に付けさせるとともに、進路意識を高める。 環境美化や交通安全への意識を育てる。 保護者、各分掌、関係機関との連携を密にして、生徒の実態把握に努める。
学校生活 (2年次)	目標	<ul style="list-style-type: none"> 中堅の年次としての自覚と責任を促し、自律・自立的な態度の育成と基本的な生活習慣及び学習習慣を養う。 生徒の個性・適性を見出し、自己理解を深めさせるとともに進路意識の向上を図る。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、生徒指導部と連携し定期的に頭髪服装指導を実施し、自覚を促す。 生徒の出席状況・学習状況を把握し、個別面接を通して、基本的な生活習慣や学習習慣を確立させる。 個別面接や家庭、関係機関との連携を通して、生徒理解を深め、個々の生徒に応じた指導を行い、生徒の自律・自立的態度を育成する。 進路ガイダンスやオープンキャンパス、就業体験等を利用して自己の適性や能力の理解を深めさせ、それに基づいて進路意識を高める。
学校生活 (3・4年次)	目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業年次としての自覚と責任を促し、自律・自立的な態度の育成を図る。 自己の進路目標に向かって努力し、実現する力を養う。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、生徒指導部と連携しながら定期的に頭髪服装指導を実施し、卒業年次としての自覚と責任を促す。 進路指導部と連携しながら、具体的な進路決定に向けて適切な進路情報を提供し、面接指導や補習指導などを通して一人一人に応じた細やかな指導を行う。 個別面接等を通して生徒理解に努め、進路実現に向けて保護者や関係各部との連携を密にする。 会社見学や学校説明会に、自覚を持って自立的態度で参加するように指導する。
学校生活 (夜間制)	目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的・職業的自立へ向けて、「人間力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」を高めていく。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活を送る上で必要な基礎的な学力を身に付けさせる。 コミュニケーションの力を高め、人間関係形成の能力を向上させる。 課題対応能力として、課題の発見・分析を促し、適切な計画を立てて課題を処理・解決できる力を高める。 自己理解の促進、個別指導の充実により、適切な進路選択へ導く。

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和8年度 志貴野高校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	・単位修得率の向上 (学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る) ・生徒の学習実態の把握	
現 状	・登校が難しかったり、安易に授業を休んだりする生徒が見受けられる。 ・学習意欲が低く、学習習慣が身に付いていない生徒がみられる。 ・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。	
達成目標	①単位修得率	②「学習時間調査」の実施
	90%以上	2回 (前期1回、後期1回)
方 策	・「学習・生活の手引き」(授業の記録の様式)を生徒に活用させ、自己管理を促す。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実させる。 ・生徒が利用しやすい「受講ガイド」を作成し、履修指導に生かす。 ・互見授業を促し、教師の指導力を高める。	・生徒自身に自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取組の振り返りを促す。(実技教科についての練習時間等を含む) ・家庭での学習時間が充実するように、教材、授業などを工夫する。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった

令和8年度 志貴野高校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	・基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成 ・教育相談体制の充実	
現 状	・ネットゲームやSNS、アルバイト等により就寝時間が遅くなるなどして、朝起きられない生徒がいる。 ・自ら挨拶を交わすことのできる生徒が少ない。 ・不登校を長く経験していたり、障がいの特性等で様々な生きづらさを抱えていたりするなど、生徒の実態が多様化している。 ・悩みやストレスを抱え、登校や授業への参加が困難になっている生徒が毎年みられる。 ・生徒が心の健康について理解を深め、主体的に考え行動できる力を育てるために、教育相談体制の充実が必要である。	
達成目標	①学校生活アンケート	②生徒への心理教育の実施 ③「心の健康教育プログラム」の開発と実践
	挨拶・遅刻について 良好又はおおむね良好 70%以上	・生徒への心理教育(研修会)の実施 ・心の健康教育に関する教員研修会の実施と、プログラムの開発・実践
方 策	・毎月「行動・身だしなみ自己チェック」を行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直しさせる。 ・生徒指導HRを実施し、挨拶の重要性を認識させるとともに、「あいさつ運動」を通して、挨拶の習慣を身に付けさせる。 ・保護者等の協力を得ながら、安全なネットの利用や基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を促す。 ・生徒の多様化と社会の実情に照らし合わせ、生徒への指導方法を工夫する。	・HR活動等の中で、スクールカウンセラーを活用した研修会を実施し、生徒が心の健康や適切なコミュニケーションのあり方についての理解を深める機会を設定する。 ・全校生徒を対象とした、心の健康に関する研修会を実施する(「健康を考える日」)。 ・昼間制1年次生を対象とした「心の健康教育プログラム」を、大学教員と共同で開発し、実践する。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった

令和8年度 志貴野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり ・キャリア発達に応じた進路支援と、主体的な進路選択・自己実現の達成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒がみられる。 ・進路実現に必要な基礎学力および一般常識、マナーが不足している生徒がみられる。 ・進路決定に向けて特別な支援を必要とする生徒がみられる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進学・就職の決定率	② 11月の進路希望調査で、進学か就職かを明確にできる生徒の割合
	90%以上	1年次80%以上 2年次90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別補習、外部模試等を計画的に実施することで、進路目標達成に必要な学力・知識を育成する。 ・学科及び就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、受験に向けた面接・小論文指導を実施し、基本マナーや自己表現力が身に付くよう指導する。 ・進路指導部から生徒・年次に対して積極的に情報提供を行い、指導の活性化を図る。また、奨学金制度を十分に理解させ、円滑な進路選択を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、進路意識の高揚を図るとともに、主体的に進路を選択する力を育成する。 ・インターンシップや学校説明会への参加を促して、自己理解を深める機会とさせ、進路研究を進めさせる。 ・キャリアパスポートでポートフォリオを蓄積する習慣を付けさせることで、自己の目標に向かっていくかを振り返らせながらキャリア形成を図る。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかというと達成できていない D: ほとんど達成できなかった

令和8年度 志貴野高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に動く生徒会活動を中心とした学校行事の活性化と、ボランティア活動への参加促進及び社会参加意識の育成 ・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や学校行事に、ほとんどの生徒が参加し運営にも協力的であるが、生徒が問題意識をもち、主体的に行事の企画・運営に携わっているとは言えない。 ・一部の生徒はボランティア活動へ積極的に参加するものの地域社会の一員としての意識は希薄である。 ・図書委員会では、図書館便りの編集、文化祭での展示を行っているが、自主的に委員会活動に携わっているとは言えない。また委員会活動によって、生徒の読書意欲の向上や図書室利用者数の増加につながっていないため、生徒の読書習慣が確立しているとは言えない。 	
達成目標	① 生徒会や学校行事に自ら進んで参加した生徒の割合	② 地域社会の一員としての意識が高まった生徒の割合
	80%以上	80%以上
方 策	③ 読書への関心が高まった生徒の増加	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が出した意見や要望を生徒会が集約し、学校行事に反映することで行事への参加意識を高める。 ・地域社会と連携した学校行事やボランティア活動を推進するとともに、生徒の関わり方を調査し、アンケート結果から問題点を把握する。 ・生徒一人一人が充実感・達成感を得られるよう、行事内容の見直しを図る。 ・生徒の自主的な活動が充実するよう、教員間の共通理解と生徒への事前指導を徹底する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員によるPRポスターやポップの制作・掲示で生徒の読書意欲を喚起する。 ・図書館講座の計画・実施によって委員会活動を活性化する。 ・新入生に対して図書室オリエンテーションを行い、図書室の利用向上を図る。 ・図書委員による選書も含め、購入図書を工夫することで読書意欲を高める。 ・読書感想企画を実施し、幅広い分野への読書の関心を高める。 		

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかというと達成できていない D: ほとんど達成できなかった

重点項目	ICT の活用			
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の学習者用端末に関してサポートを行い、利用に関するルールや活用方法等を検討する。 ・教職員の ICT 利活用能力と指導能力の向上を目指す。 			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の新入生より Windows 端末から、Chromebook に切り替わった。1年次は6月より Chromebook の利用が始まる。3年次以上は、従来通り貸与（Windows）端末を利用しており、複数の端末が混在している状態である。 ・昨年度末に校内の教員向けに行った文部科学省のアンケート調査の結果によると、「教員が授業に ICT を活用して指導する能力」、「生徒の ICT 活用を指導する能力」の各項目における自己評価において、「できる」と回答した教員の割合が3割から5割弱であった。（令和7年度） 			
達成目標	① 教員の ICT 活用能力、及び、指導能力の向上		② 生徒の ICT 活用の充実	
	ICT を活用し、生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討ができたりするように指導することが「できる」教員の割合	生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりすることができるように指導することが「できる」教員の割合	授業やHRなどの活動において、Classroom を活用して連絡、学習への取組ができる割合	インターネットなどの活用を通して、学習を深化させることができる割合
	70%	70%	70%	70%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における教育の情報化の実態等に関する調査（アンケート） ・セキュリティ研修会の実施 ・ICT 支援員の活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・新入生向けタブレット研修会（端末の運用方法と教育クラウドサービスの活用について） ・授業活用度アンケート ・ネット安全教室（生徒指導部） 	

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった